

必聴!! チェロ 3大協奏曲

上野通明

佐藤晴真

# 狂

2026  
コンチェルト

[管弦楽]

大阪フィルハーモニー交響楽団

[指揮] 大友直人

横坂源

チャイコフスキー: ロココの主題による変奏曲 op.33 上野通明

エルガー: チェロ協奏曲 ホ短調 op.85 佐藤晴真

ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 ロ短調 op.104 横坂源

2026 7/4 (土) 14:00開演 (13:00開場)  
S 8,800円 A 7,700円 B 6,600円(全席指定/税込)

ザ・シンフォニーホール

主催: ザ・シンフォニーホール

プレイガイド

- e+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonyhall> (パソコン・携帯)
- ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall> [Lコード: 52610]
- チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード: 313-488]

ご予約・お問合せ

ザ・シンフォニー チケットセンター  
06-6453-2333 (火曜定休)  
<https://www.symphonyhall.jp>

詳細はこちら



※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。\*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

# 熱狂 コンチェルト 2026

## 必聴!! チェロ3大協奏曲

いまやコンチェルト(協奏曲)はコンサートのなかで花形ジャンルと言って過言でない。人気ソリスト、名指揮者、高レベルのオーケストラ三者の魅力を同時に味わえるのだからこれほどゴージャスな音楽もない。ザ・シンフォニーホールが贈る「熱狂のコンチェルト」はまさにクラシックファンの要求を満たすハイクオリティの名物企画だ。9回目となる今回は“チェロ大国”日本が誇る旬の名手3人の饗宴となる。ジュネーヴ国際コンクール1位(2021)の上野通明はチャイコフスキーの「ロ可可変奏曲」、ミュンヘン国際コンクール1位(2019)の佐藤晴真はエルガーの協奏曲、そしてミュンヘン国際コンクール2位(2010)受賞後いっそうの進化を遂げる横坂源がドヴォルザークの協奏曲を披露し、大友直人率いる大阪フィルハーモニー交響楽団(シリーズ初登場)と白熱の演奏を繰広げる超ド級の内容。ロマン的な旋律美とシンフォニックなサウンドがあなたの心を熱くする!

城間 勉(音楽ライター)

[指揮] 大友直人 Naoto Otomo, Conductor

桐朋学園在学中にNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本のクラシック音楽界をリードし続けている。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京交響楽団常任指揮者、京都市交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督を歴任。現在東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー。東京文化会館の初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築いたほか、海外オーケストラからも度々客演として招かれている。大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。



©Rowland Kirishima



©Sotaro Goto

[チェロ] 横坂 源 Gen Yokosaka, cello

桐朋学園女子高等学校、同ソリストディプロマ・コースを経て、シュツットガルト国立音楽大学、フライブルク国立音楽大学にて学ぶ。全日本ビバホール・チェロコンクール第1位、2010年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位。その他出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、ホテルオークラ音楽賞等多数受賞している。13歳で東京交響楽団とソリストデビューし、近年は協奏曲の日本初演多数行う。2021年からはザ・シンフォニーホールで定期的にリサイタルを行うなど、勢力的な活動を展開している。録音は、「R.シュトラウス&ラフマニノフ」を含む3枚のアルバムをリリース。現在最も幅広い演奏活動を展開するチェリストの一人。



©Seiji Okumiya

[チェロ] 上野通明 Michiaki Ueno, cello

2021年ジュネーヴ国際音楽コンクール・チェロ部門日本人初の優勝、あわせて三つの特別賞受賞。13歳で若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール日本人初の優勝以来、数々の国際コンクールで優勝。日本製鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、ベートーヴェン・リング賞、令和3年度文化庁長官表彰など受賞歴多数。録音は、「オリジン ~チェロ独奏のための邦人作品集」を含む2枚のアルバムをLa Dolce Voltaよりリリース。桐朋学園大学を経て、ピーター・ウィスベルウェイに招かれ19歳で渡独。エリザベート王妃音楽院にてゲリー・ホフマンに師事。楽器は、1730年製A.Stradivarius "Feuermann" (日本音楽財団)、弓はF.Tourte (住野泰士コレクション)をそれぞれ貸与されている。



©Seiichi Sato

[チェロ] 佐藤晴真 Haruma Sato, cello

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝し、一躍国際的に注目を集めた。18年にはルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞を受賞。第83回日本音楽コンクール チェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞など受賞多数。国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。23年4月、名門ドイツ・グラモフォンより3枚目のアルバム「歌の翼に~メンデルスゾーン作品集」がリリースされた。第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞、第32 回日本製鉄音楽賞受賞。21年度文化庁長官表彰(国際芸術部門)。使用楽器は宗次コレクション貸与のE. ロッカ1903年。



©飯島隆

[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団 Osaka Philharmonic Orchestra

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で創立、1960年改称。創立から2001年までの55年に亘り朝比奈隆が音楽総監督・常任指揮者を務めた。大植英次(音楽監督)、井上道義(首席指揮者)の後を受け、2018年4月、尾高忠明が音楽監督に就任。現在、フェスティバルホール(大阪・中之島)を中心に全国各地で演奏活動を展開している。2024年4月より、クラリネット奏者のダニエル・オッテンザマーがアーティスト・イン・レジデンスに就任。2025年4月より、松本宗利音(まつもと しゅうりひと)が指揮者に就任。2025年11月「ベートーヴェン/交響曲第1番・第2番」(尾高忠明指揮:2025年9月録音)をオクタヴィア・レコードよりリリース。オフィシャル・ホームページ <https://www.osaka-phil.com>